

笠鉾を間近で見学 塩屋笠鉾「迦陵頻伽」寒干し



▲並べられた部品をじっくりと観察する児童たち

2月20日、八代小学校体育館で塩屋町笠鉾「迦陵頻伽」の寒干しが行われ、同校の全児童が見学しました。

寒干しは、乾燥した冷たい空気にさらして笠鉾の湿気や虫を取り除く作業のことで、妙見祭や笠鉾に少しでも興味を持つてもらい、後継者育成に繋げようと、2年前に公民館から小学校に場所を移して行っています。

シートの上に並べられた部品に児童たちは興味津々。部品の近くまで寄ってじっくりと観察し、積極的に質問をしていました。

6年生の内田耀介さんは「部品が220個あることや笠鉾が3時間で組み立てができることにとても驚きました」と話しました。

夢に向かって努力を スケートキャラバン



▲鈴木明子さんの指導のもと、楽しく滑る児童たち

元五輪日本代表のフィギュアスケーター鈴木明子さんが出張体験型授業「スケートキャラバン」のため、2月24日に郡築小学校を訪れました。

これは、フィギュアスケーターが努力することや夢を持つことの大切さを児童に伝えるとともに、実際にスケート靴を履いて一緒に滑る内容となっています。

講演では、鈴木さんが「失敗しても諦めず、何度でも立ち上がろう。できないことがあるときに原因を考えて、再び挑戦することが大事。そして、周りの人と支え合って、大きな夢をつかんでほしい」と自身の体験をもとに語りました。

その後、5・6年生が樹脂製のスケートリンクでスケート体験。鈴木さんからアドバイスを受けながら滑りました。

ディスカバー農山漁村の宝に選定 やつしろ菜の花ファーム 987



▲表敬に訪れたやつしろ菜の花ファーム 987の皆さん

2月13日、やつしろ菜の花ファーム 987の岡初義代表ら6人が市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に九州農政局「ディスカバー農山漁村の宝」に選ばれたことを報告しました。

これは、農山漁村が有する地域資源を活用した地域活性化への取り組みの中で、優良な事例を九州農政局が選定するものです。同ファームは、「日本文化い草（畳）と菜の花プロジェクト」を活動のキャッチフレーズとして、菜の花を活用した循環農業や昼のよさをアピールするイベント、ウォーキング大会の開催などの活動が評価されました。

岡代表は「農業だけでなく、いろいろな産業団体と連携し、八代の活性化を図りたい」と今後の抱負を述べました。

八代地域の中山間地域で初 農事組合法人「鶴喰なの花村」設立



▲設立総会に出席した組合員

清流に囲まれた山村集落である坂本町の鶴喰地区で、八代地域の中山間地域で初となる農事組合法人「鶴喰なの花村」が設立され、2月24日、さかもと温泉センター「クレオン」で構成員農家と関係機関など約50人が集まり設立総会が開かれました。

本地区は、食味が良いとされている「鶴喰米」の産地として知られていますが、高齢化に伴い、農業・農村の維持が難しい状況となり、地区の農業を存続させようと地区内の農家が農地約8haの集積を図り、農作業や施設の共同化で効率化を目指そうと法人化しました。

松村梅雄代表理事は「菜の花をすき込んで有機肥料とした鶴喰米のブランド化を目指したい」と意欲を語りました。

トマトの祭典 やつしろ TOMATO フェスタ



▲毎年恒例のトマト早食い大会

2月26日、第5回やつしろTOMATOフェスタが本町アーケード内で開催され、買い物客や親子連れなど多くの人で賑わいました。このフェスタは、日本一の生産量を誇る八代の「冬トマト」の認知度向上と消費拡大を図ることを目的としています。

ステージ上では、ゆるキャラの「くまモン」や「とまピン」などがコラボしたダンスやパフォーマンスの披露、毎年恒例のトマト早食い大会などが行われました。また、地元産のトマトや野菜を使用した鍋の振る舞いには、長蛇の列ができていました。

観光の目玉に 船頭研修会



▲全長8mの遊覧船を進める参加者

国指定史跡である八代城跡のお堀に、3月下旬から遊覧船を浮かべる計画に伴い、2月24日、同お堀でその船頭の研修会が行われました。

これは、八代港へのクルーズ船寄港の大幅な増加が見込まれることから、遊覧船を浮かべることで、国内外の旅行客の増加と地域活性化の推進を目的としており、クルーズ船の寄港日の他、週末も実施する予定です。

研修会では、福岡県柳川市から招いた現役船頭が竹竿や体の使い方などを説明。参加者は長い竹竿に苦戦しながらも船を進めたり、方向転換の練習を行いました。

サイクリングを楽しむ 八代海北部沿岸周遊「ぐるりんサイクリング」



▲ぐるりんサイクリングに出発する参加者

2月18日、八代市、水川町、宇城市、上天草市の八代海北部沿岸地域を自転車で巡る「ぐるりんサイクリング」が行われました。

これは、八代海北部沿岸地域における観光資源の共有や、交流の促進を図るために試験的に開催されたものです。

コースは、八代よかとこ物産館と上天草市のリゾテラス天草の2カ所から出発し、各チェックポイントを経由して、チャーター船で海を渡り、出発点に戻る約70kmの道のりです。各チェックポイントを通過する以外は自由で、各自が考えたコースをそれぞれのペースで走りました。

八代史談会歴史探訪 妙見神ゆかりの地を巡る



▲「木造阿彌陀如来坐像」を拝観する参加者

3月4日、「妙見神ゆかりの地を巡る」が開催され、約70人が参加しました。

これは、八代妙見祭の神幸行事がユニスコ無形文化遺産に登録されたことを記念し、市民に妙見祭への理解と知識を深めてもらおうと八代史談会が企画したものです。

八代史談会名誉会長の松山丈三さんの案内のもと、八代神社を出発。霊符神社、御小袖塚、懐良親王御陵、階下釈迦堂などを巡りました。また、階下釈迦堂では、妙見神の伝承に関連すると考えられる亀蛇の台座に乗った「木造阿彌陀如来坐像」を拝観し、妙見祭の歴史について学びました。

八代城の魅力学ぶ 八代城跡石垣修復見学会



▲被災した廊下橋門跡石垣を見学する参加者

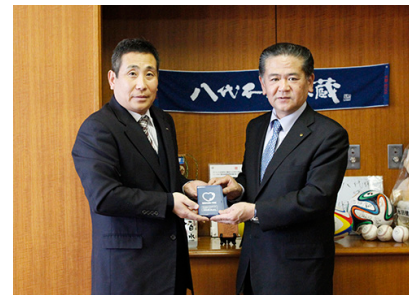
3月4日、国史跡である八代城跡の石垣修復見学会が開催されました。

これは、熊本地震で被災した石垣の修復箇所を公開し、本丸跡石垣を詳しく紹介することで、八代城の魅力を学んでもらうことが目的です。

厚生会館の芝生広場で、市文化振興課職員から熊本地震後の市内文化財の状況や約400年前に地震で倒壊した麦島城などの説明後、今回の熊本地震で被災した石垣を見学しました。

修復方法や熊本城との石組みの違いについての説明に参加者は終始聞き入り、疑問点があれば質問をして理解を深めていました。

耳や言葉が不自由な人のために 「電話お願い手帳」を贈呈



▲電話お願い手帳を手渡す磧信男支店長(左)

2月28日、NTT西日本八代支店の磧信男支店長らが市役所鏡支所を訪れ、「電話お願い手帳」を中村博生市長に手渡しました。

これは、同社が社会貢献事業の一環として毎年行っており、今年で35回目。「電話お願い手帳」は耳や言葉が不自由な人が電話をかける、道を確認するなどの必要ときに周りの人にお願したいことを伝えるための手帳です。

磧支店長は「手帳以外にもスマートフォンに対応したアプリ版、パソコンやスマートフォンの携帯電話でアクセスして利用できるWeb版もあるのでぜひ活用してほしい」と話しました。



赤ちゃんにとって初めての大会 全国赤ちゃんハイハイ大会on the 畳



▲保護者のもとへ元気良くハイハイ

3月11日、「第5回全国赤ちゃんハイハイ大会 on the 畳」がイオン八代ショッピングセンターで開催され、1歳未満の歩き出す前の赤ちゃん約120人が参加しました。
1組5人の赤ちゃんがスタートからゴールまで約4mをハイハイしました。保護者が玩具や食べ物で赤ちゃんの気を引きますが、微動だにしない赤ちゃんもいれば、いつまでも食べ物もらえないと泣き出す赤ちゃんや元気良くハイハイし、ゴールで待つ保護者に一直線の赤ちゃんもいました。みんなゴールすると保護者に抱えられ、笑顔が溢れていました。

児童生徒の模範的な活動 八代市善行児童生徒表彰式



▲表彰を受けた皆さん

3月6日、八代市善行児童生徒表彰式が厚生会館で行われ、市内小中学校の3個人、5団体が表彰を受けました。
これは、市内小中学校の児童生徒を対象に、社会奉仕活動や人命救助に関することなど、模範となる活動を自主的に行った人を表彰するものです。個人で表彰を受けた第一中学校の入田琴司さん、上野晶さん、入田彪雅さんは、クラブのランニング中に3歳の男の子が1人で道を歩いていたのを発見。周囲に保護者がいないことを確認し、近くの保育園まで連れて行き、大人に引き継いだことが表彰されました。

日奈久の夜空をを彩る大輪の花 八代版ふっこう割キャンペーンで花火



▲日奈久の夜空を彩る花火

3月4日、日奈久ドリームランド「シー・湯・遊」で約300発の花火が打ち上げられました。
これは、市とDMOやつしろが市内のホテルや旅館に格安で泊まれる「八代版ふっこう割」キャンペーンのひとつとして開催したもので、温泉客や家族連れなどが日奈久の夜空に打ち上げられた、さまざまな形の花火を楽しみました。

100歳おめでとうございます



橋本 テル子さん (鏡町)

大正6年3月14日生

鏡町下村に7人きょうだいの長女として生まれ育ったテル子さん。90歳まで助産師をしており、今までに2000人の赤ちゃんをとりあげ、2世代に渡ってお世話になった人もいるそうです。
かかさず日記を書くテル子さんの長寿の秘訣は「我慢をしないこと」。



森山 シヅエさん (古城町)

大正6年2月20日生

高田校区の農家に生まれ育ったシヅエさん。
独学で和裁や洋裁を習得し、子どもたちの洋服や孫たちの丹前も作りました。また、正月には餅をたくさん作り、近所の人たちに配っていたそうです。
長寿の秘訣は「よく食べて、大きな病気をしなかったこと」。



重本 千代子さん (永碓町)

大正6年2月12日生

永碓町で4人きょうだいの長女として生まれ育った千代子さん。19歳のときに結婚し、農業をしながら3人の子どもを育てました。編み物が得意で、レースでテーブルかけを作ったこともあります。
長寿の秘訣は「3食きちんと食べて、間食をしないこと」。

真っ赤なトマトをいっぱい食べて JAやつしろトマト贈呈式



▲真っ赤に熟れたトマトを受け取る園児たち

3月16日、JAやつしろ北部野菜果実選果場利用組合の組合員ら6人が、鏡校区内の8保育園を訪問し、はちべえトマトとミニトマト約150kgを贈呈しました。
これは、地元八代の特産品であるトマトの美味しさを実感してもらいたいという思いで贈られているもので、今回で4回目となります。
鏡保育園で行われた贈呈式では、同組合の太江田雄一組合長が「トマトには風邪に強くなる栄養が入っていますので、たくさん食べてください」とあいさつ。園児全員が「ありがたうございました」とお礼を述べました。